

I はじめに

吃音のある子どもたちとの出会いは、今から7年前にさかのぼる。今でこそ、吃音の研修会は頻繁に開かれるようになり、吃音支援の道筋も見えてきたが、その当時は吃音についての情報がたいへん少なかった。初めて取り寄せた吃音の資料は、ことばの臨床教育研究会の「どもる子どもがクラスにいたら」などの冊子で、それをもとに、保護者や担任の先生と話したことを覚えている。2012年の言語発達障害研究会で自分の吃音支援の迷いについて質問したとき、吃音研究の大家である長澤泰子先生から次のような言葉をいただいた。「子どもに寄り添って支援するのと、テクニックで指導するのと、どちらが害がないか、前者である…」この言葉を支えに現在も吃音支援を続けている。

II 実践事例

1 題材名 お話しよう

2 題材について

A児は、吃音の症状はあるものの学校生活の中ではあまりその症状が目立つことはない。朝の会の健康観察の返事もしっかりとでき、国語の教科書の音読もスムーズにできる。教師や友達との会話でも、早口にならずに落ち着いて話している。ことばの教室では、小さい声で語頭音を繰り返したり、「えー」という挿入があったり、話し始めるまで間があったりする。しかし、その症状には波（吃音が多い日と少ない日が繰り返しくること）があり、吃音が少ない日が多い。また、保育園や現在の学級でも、吃音について友達からからかわれることはなかった。家庭では、親子で吃音について話しているため、ことばの教室でも、大きな抵抗もなく自分の吃音について話すことができた。この吃音に対しての肯定的な気持ちは、今後の生き方につながる力になるので大事な力である。

そこで、本時の授業では、吃音のDVDを教師と見ながら、吃音の知識や理解を深めていきたい。教師と対話する中で、吃音の知識や理解だけでなく、生活の中でどうしていくことが自分の気持ちに合っているかも考えていきたい。これらの活動を通して、吃音に対する肯定的な気持ちがより深まっていくと考え本題材を設定した。指導にあたっては、本児の話す意欲が広がるように、本児のペースに合わせ、本児の思いを受けとめて、ゆったりとした雰囲気心を心がけていきたい。

3 児童の実態と個別目標

氏名	児 童 の 実 態
A児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A児は、会話時に語頭音を繰り返したり引き伸ばしたりする吃音の症状があったため、年長から、ことばの教室幼稚園で教育相談を受けていた。就学を控え環境の変化があるので、吃音の症状が多くなってしまわないかとの保護者の心配から、本校ことばの教室の入級となる。</li> <li>・初めて吃音の症状があったのは、2歳6か月。家庭では、語頭を伸ばして息が切れてしまう様子や話そうとするとときに体の一部に力が入ってしまうことがあった。自分の思いや考えを話すときに吃音が多くなるようだった。家族に吃音のある人はいない。吃音については、オープンに家族の中で話すことができていた。保育園で、吃音のために、からかわれるということもなかった。</li> <li>・吃音検査では、質問応答・単語呼称・単語音読・文音読・文や文章による絵の説明で吃音の症状はなかった。自由会話では、語頭音の繰り返しや「えーと」の挿入、話し始めるまでに間を取るなどがあった。吃音の症状があるときは、喉に力が入ってしまうこともあるようだが、目立つ体の動きはなくなっている。自分では気づいていないが、語頭音の繰り返しを小さな声で言ったり、ゆっくりと話したりしている様子がある。また、自分の吃音については、自分のことばで話せる。</li> <li>・現在、心配された吃音の症状が増えることはなく、明るく元気に学校生活を送ることができている。学級からは、「いってらっしゃい」と気持ちよくことばの教室に送り出されている。</li> </ul>
	目 標
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吃音について教師と話することができる。【2-（3）】</li> <li>・自分が話しやすい方法に気づくことができる。【6-（2）（4）】</li> </ul>

4 指導計画と評価（36時間扱い）

月	学習内容・活動	評 価
5	3 ・自由会話 ・ことば遊び ・お話しよう ↓ 「さいころトーク」「吃音絵本」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吃音があっても、自分が話したいことを話すことができる。</li> <li>・吃音について、わかったことや感じたこと、考</li> </ul>
6	8 ↓ 「すごく！すごろく」 ↓	

7	3	↓グループ学習 (学期に1回)	えたことを教師と話することができる。 ・話しやすい方法に気づくことができる。
9	3	「説明タイム」 「吃音 DVD」	
10	8	↓継続指導 (3月まで)	

## 5 本時の目標

### (1) 個別目標

氏名	目 標	自立活動
A児	・吃音について教師と話することができる。	【2－(3)】

### (2) 準備・資料

さいころトーク用さいころ, 吃音 DVD 「ただ, そばにいる」, 円が描かれている A3用紙, 色ペン, カードゲーム

### (3) 展開

学習内容・活動	支援の手立てと評価
1 はじめのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目と目を合わせてあいさつをする。安心し, リラックスできる雰囲気づくりに心がける。</li> <li>・あいさつや自由会話の中で, A児のこぼれの様子を確認する。</li> </ul>
2 本時の学習内容を確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">         ・お話ししよう。       </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードに本時の流れを提示し, 学習課題や内容を知らせることで, 見通しをもって最後まで意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>
3 さいころトークをする。 ○交代でさいころを1回ずつふる。 ○出たテーマについて話す。 さいころテーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>・すきなのみもの</li> <li>・小さいものは</li> <li>・やすみじかんのこと</li> <li>・どうぶつになれたら</li> <li>・アニメのどうぐ</li> <li>・ともだちといきたいばしょ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくりとした発話速度で話すことを心がける。</li> <li>・A児が話し終えたあと, 一呼吸おいてから話し始めたり, 必要に応じて, A児の発話をゆっくり言い返したりすることで, 「ゆっくり」「ゆったり」した発話環境作りを心がける。</li> <li>・吃音が見られても, ことばが出るまで待つようにする。</li> <li>・アイコンタクトや相づちなどを行うことで, きちんと聞いてもらっているという実感をもてるようにする。</li> </ul>
4 吃音の DVD 「ただ, そばにいる」を見る。 ○自分の吃音について「症状」「悩み」「周りの反応」を絵や円の大きさを表現する。 ○気づいたことや感じたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と同じところがあったか。</li> <li>・自分と同じ考えだったか, 違ったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A児が自分の吃音について絵を描きやすいように, DVD中の他児の絵を指し示したり, 説明したりする。</li> <li>・A児が話したことを, 繰り返したり, 内容を広げたりすることで, A児が感じた吃音への気づきをまとめていく。 (評) 吃音について気づいたことを自分のことばで表現することができたか。(観察)</li> </ul>
5 カードゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リラックスした場面で, 思い切り声を出したり, 自分の思いを伝えたりできるように, A児主導で動き, A児を受容する。</li> <li>・吃音の様子を確認する。</li> </ul>
6 終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばったことを称賛し, 次時への意欲づけとする。</li> </ul>

## III 終わりに

吃音支援の内容や方法は「現在進行形」であると思う。昔の考え方とは180度違っているものもあるので, 吃音のある子どもたちや保護者とかかわる私たちは, 常にアンテナを張り巡らせて最新の吃音支援情報を知っていなければならないと思う。その上で, 目の前子どもや保護者の声を聴き, 寄り添い, そのニーズに合う支援を提案できるのが現在の吃音支援であると思う。